

ミナモと ヤマリンが お米を守る



武儀西小学校の児童が、同校5年生が米作りをしている水田に立てるかかしを18体作りしました。今年は同校区の「地域で子供を育てる会」会員の塚原昭浩さんが「ぎふ清流国体」と「全国豊かな海づくり大会」に

ちなんで作った、ミナモとヤマリンが仲よく手をつないだかかしも登場して大切な稲を守っています。ミナモとヤマリンのかかしは、このほかに県道関金山線沿いの水田と塚原さんの自宅前に立っています。

あんな事、こんな事



わが子の健康と良縁を願って

南春日町の春日神社で「天王祭り」が行われました。別名「ちょうちん祭り」とも呼ばれ、神社の能舞台にて行われる夏の風物詩ともいえる伝統の祭礼行事です。竹の小枝に付けられた小さな提灯に、子どもの氏名や年齢を書き、神前に捧げ、男子と女子の提灯を交換します。付き添う親たちは子どもの健康を願うとともに将来の良縁を祈願していました。

勇壮な夏の風物詩

洞戸通元寺で、津島神社の祭礼「ちょうちんまつり」が行われました。数多くの提灯やタオルなどをぶら下げた百数十本あまりの竹を抱えた一行が、通元寺橋から神社までを練り歩き、境内に到着すると、高さ約3メートルの石垣から順番に竹を振り下ろし、石垣下集った観客が竹を激しく引っ張りながら提灯やタオルを奪いとる、まさに勇壮なお祭りでした。





うちわ片手に夏を満喫

「第 27 回関市ふるさと夏まつり」が本町通りで開催され、浴衣姿の若者や家族連れでにぎわいました。パトロンや園児の鼓笛演奏、民踊り流しなどのパレードのほか、いろいろなイベントが開催され、キュウリの薄切り世界大会や金魚すくい、輪投げゲームなど、どのコーナーも大変な人気でした。特設会場では各種ダンスも披露されたほか、本町 2 丁目交差点では盆踊りも行われ、大いに盛り上がりました。

ゆらめく炎に無病息災を願う

下之保戸丁地区で、夏の伝統行事「たいまつまつり」が行われ、蒸し暑さが残る夕方午後 6 時から、たいまつで 1 年の無病息災を願いました。世帯ごとに 3 本ずつたいまつを持ち寄り、神社へ向かう約 100 メートルの道路脇に掲げていきました。のどかな田園を背景に真っ赤な炎が連なり、情緒あふれる雰囲気の中、たいまつに向かって手を合わせ、家族の健康を祈っていました。



みんなで道路をきれいにしたよ

博愛小学校の全校児童が、運動場や学校周辺、学校付近を通る「武芸川ふれあいロード」(国道 418 号)の歩道の清掃や草引きを行いました。児童らは 16 班に分かれて、それぞれの持ち場へ行き、6 年生が草を引いて、1 年生がそれを集めて一輪車で運んだり、一緒に草を引いたりしました。とても暑い一日でしたが、気持ちよい汗をかきながら、みんなで協力してきれいになりました。

ものづくりの楽しさを味わって

関商工高等学校で「わくわくものづくり広場」が開催され、夏休み中の小学生 25 人が参加して、オリジナルアナログ時計を作りました。子どもたちは、30 センチ四方の木製の文字盤にレーザー加工機で名前などを入れ、文字盤を紙やすりで磨いてつや出しを塗り、ムーブメントと色を付けた針を取り付けて完成。電池を入れて秒針が動き出すと、みんな笑顔で喜びました。



こぼれ話



イタリアの科学者ガリレオ・ガリレイが初めて望遠鏡を夜空に向けてから 400 年目の今年は「世界天文年」とされています。そんな今年もすでに半分以上が過ぎ、世界天文年をほとんど意識していなかった私ですが、7 月は武芸川中学校生徒による国際宇宙ステーションとの交信や、わかさ・プラザでの部分日食の観望に立ち会い、宇宙や天文について少し関わることができました。今度は実際に星空でも見ようかと夜空を見上げるので

すが雲、雲、雲。そして雨、雨、雨。梅雨が明けたのかどうかわからない天気が続く、夏の星座を探そうとできません。そんな時は、わかさ・プラザ「学習情報館」3 階のプラネタリウムがおすすめです。雲ひとつない満天の星空に親切な解説も付き、人気アニメのキャラクターの説明で、天文について楽しく学ぶことができます。毎週日曜日が一般投影日で、詳しくは、まなびセンター(☎ 23-7760、ホームページ www.city.seki.gifu.jp/manabi)までお問い合わせください。